

## 1. 単元名「日本と世界の音楽に親しもう」

## 2. ねらい

- ・日本に古くから伝わる歌と楽器の音色を味わって、聴いたり歌ったりする。
- ・世界の国々の楽器の音色の特徴や、音楽の雰囲気の違いに気を付けて聴き、諸外国の音楽に親しむ。

## 3. 展開の構想（単元観・児童観は、教育芸術社「小学生の音楽6 指導書研究編」から、そのまま引用）

## ・単元観

我が国や諸外国の音楽の特徴を感じ取ったり、そのよさを味わったりしながら、それぞれの音楽に親しんでいくように学習を進める。

我が国には、長い間に日本独特の風土や民族性に合うように改良され、形作られてきた音楽文化があることに気付き、興味・関心をもちながら、その特徴を感じ取ったり、その美しさを味わったりするようにする。また、諸外国にもそれぞれの国の風土や民族性によってはぐくまれてきた独自の文化があり、我が国とは違った音楽文化があることに気付くとともに、それぞれの国の音楽のよさを感じることによって親しみをもち、身近なものにしていく。

我が国の音楽を取り上げることで、自国の芸術や文化に誇りをもつだけでなく、他国の芸術や文化を尊重する態度を養うことにもつながり、国際理解の一翼を担う。さらに、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて行われる中学校の鑑賞学習にもつなげていく。

## ・児童観

5年生では「声」を中心にした教材を取り上げたが、6年生では楽器に焦点を当てて取り上げる。雅楽「越天楽」の鑑賞と関連付けて、世界の国々の楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気の違いを感じ取りながら、鑑賞の学習を進める。

## ・指導観

我が国の音楽として雅楽「越天楽」を取り上げる際に、以下の点を工夫する。

①雅楽で使用されている「管楽器」の音色に込められた意味を知る。また、それぞれの楽器の「鳴る仕組み」を理解し、ストローで作る体験を行うことを通し、音色に着目させる。

笙（しょう）・・・鳳凰が翼を上に向けている形をしている。「天の声」を表わす。

篳篥（ひちりき）・・・「地上の人の声」を表わす。

龍笛（りゅうてき）・・・「龍の声」を表わす。

（「龍」が「天」と「地」を行き交う様子から、この3つの音色が合わさることで「小宇宙」を表現していると言われている。この日本特有の文化的背景について触れる）

②我が国の音楽である「雅楽」について、「雅楽を知らない人に紹介するとしたら？」という視点を設けることで、雅楽の音色・リズム・速度・旋律の特徴などに着目させたい。さらには日本の音楽と世界の音楽を比べながら、諸外国の音楽に親しもうとする態度を育みたい。

③「主体的・対話的で深い学び」の場として、鳴る仕組みを作る活動、曲想について感じたことを表現する活動に際しては、友達と協力したり、感想を交流したりする場面を設定する。

（宇宙飛行士：若田光一さんの「和の心（思いやり・助け合い・協力する気持ち）」について紹介する。）

4. 指導計画（全4時間） \*この指導案では、第1時・第2時の「雅楽」についてのみ述べている

第1時・・・雅楽の歴史や雅楽の楽器の鳴る仕組みを知り、雅楽に興味をもつ。

第2時・・・「越天楽今様」の歌唱奏を通し、雅楽「越天楽」の楽器の響きや曲想を感じ取る。

第3時・・・いろいろな国の音楽を聴き、楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気の違いを感じ取る。

第4時・・・それぞれの国の音楽の特徴や演奏のよさを感じ取って聴く。

6. 本時の学習（1/4時間）

○本時の目標

- ・雅楽の楽器が鳴る仕組みを理解し、その仕組みを作って体験し、音色の違いを感じる。
- ・楽器の音色に着目しながら、雅楽のリズムや速度、旋律の特徴に着目して聴くことができる。

○本時（第1時）の展開

		○学習活動	*指導上の留意点
導入	2	○本時のねらいを知る。  日本に古くから伝わる「雅楽」について知ろう	
展開	15	○「雅楽」と「鳴る仕組み」についての説明を聞く。 ・歴史・使われる楽器 音階と惑星の名称との関係 ・オーケストラとの比較 ・音色の意味 ①笙・・・天の声 ②箏・・・・地上の人の声 ③龍笛・・・龍の声 ・鳴る仕組み（フリーリード・ダブルリード・エアリード） ・宇宙飛行士・若田光一さん「和の心」	*パワーポイントで説明する。 *平調「越天楽」を聴きながら説明する。 *配付資料を用意する。 *近くの人と意見交換をする場を設ける。  *音楽鑑賞用CDの「雅楽 越天楽」の冒頭で、それぞれの管楽器の音色を聴いてみる。 (龍笛→笙→箏の順で鳴る。 笙と箏は、ほとんど同時に鳴るので注意。)
	15	○雅楽の管楽器の「鳴る仕組み」を、ストローで作る。 ・フリーリード、ダブルリード、エアリードのうち、ひとつを選んで作る。(3つ全て作ってもよい)	*はさみ、カッター、セロハンテープ 両面テープを使用。 *作り方説明書を、各グループに1部ずつ用意する。 *作り方のコツなどを友達同士で意見交流しながら、協力して作ることができるよう、声をかける。
	3	○ストローで作った楽器を鳴らしてみる。	
終末	10	○本時の活動について、振り返る。 (空気・鳴る仕組み・和の心)	*ワークシートに感想を書く。

○（参考：第2時の展開）

		○学習活動	*指導上の留意点
導入	2	○本時のねらいを知る。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ①「越天楽今様」を歌おう・合奏しよう                      ②雅楽の楽器の音色を聞いてみよう                      ③雅楽「越天楽」を聞こう                 </div>	
展開	13	○「越天楽今様」のCDを聞き、歌う。	*教科書の「歌詞の意味」を見ながら聞く。 *本時は鑑賞を重視するため、1回歌うのみ。
		○「越天楽今様」を合奏する。 ・地上の人の声・・・歌 ・天の声・・・・・・鍵盤ハーモニカ ・龍の声・・・・・・リコーダー ・楽太鼓・・・・・・大太鼓 ・鉦鼓・・・・・・トライアングル	*教師が範奏する。 *楽器（歌を含む）を1つだけ選び、練習する。 （鑑賞を重視するため、練習時間は3分程度。 楽譜には階名を記入しておく）
	10	○雅楽の楽器の音色を確認する。	*楽器の写真を黒板に掲示 *箏、楽琵琶は、CD「平安朝～殿上人の秘曲」に、分かりやすい独奏の音源がある。 *龍笛・篳篥・笙は、書籍「はじめての雅楽」の付録CDに、より分かりやすい音源が入っている。 *打ち物については、次の楽器の音色を参考に する。 楽太鼓→大太鼓（手でミュートする） 鉦鼓→ちゃんちき、 又はフライパンが、なかなか近い 鞆鼓→ボンゴ（手でミュートする）
終末	4	○楽器の音色に着目しながら、雅楽「越天楽」を聞く。	*ワークシート
	13	○「音色の重なり」「リズム」「速さ」に着目し、雅楽「越天楽」を聞く。 ◇音色が少しずつ増えていく ◇リズムがきっちり決まっていない ◇ゆっくり	*越天楽今様の範唱CDと比較すると、特徴が分かりやすい。
		○ワークシートにまとめる	

<書籍>

・笹本 武志 著『はじめての雅楽』 東京堂出版，2003 （CD付）

<CD>

・東京楽所 『平安朝 ～殿上人の秘曲』 日本コロムビア，1992